

平成29年度
全国学力・学習状況調査
の結果について



平成29年11月
泉南市教育委員会

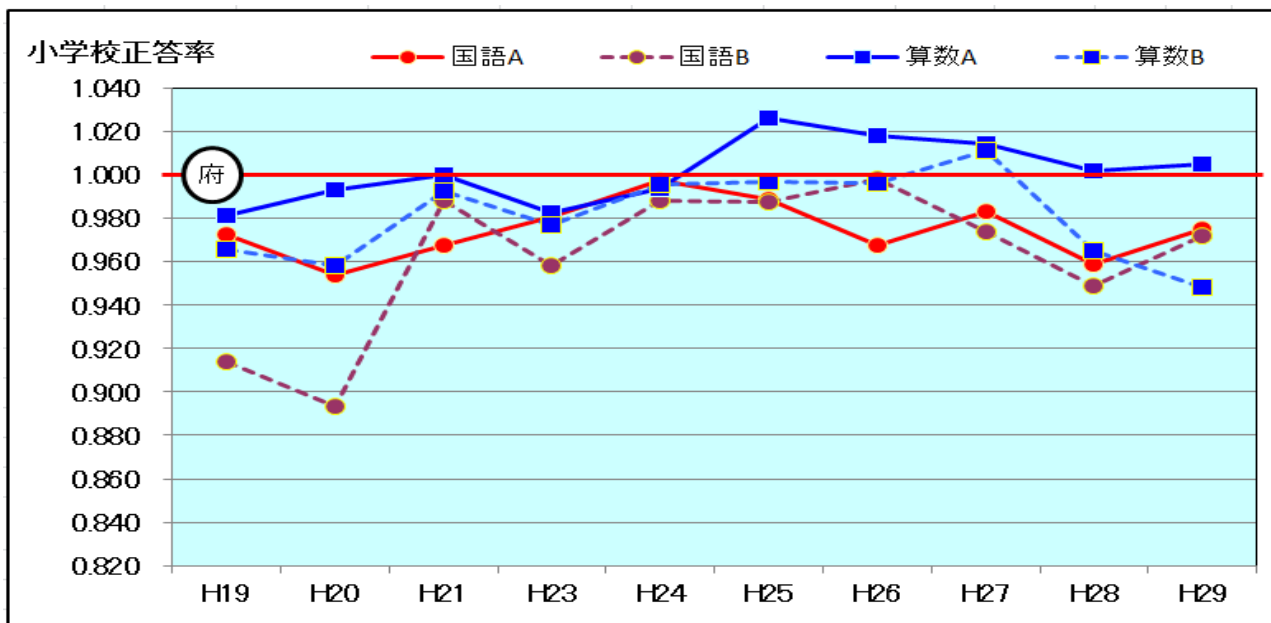
小学校の結果の概要

1、 経年変化の様子 対象学年は第 6 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1	68.4	52.6	70.2	53.0
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974	0.959	0.949	0.975	0.972
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934	0.938	0.910	0.934	0.922
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7	71.3	55.4	72.1	54.5
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4	72.9	57.8	74.8	57.5

算数	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6	77.1	44.2	78.2	42.3
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011	1.002	0.965	1.005	0.948
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991	0.993	0.936	0.995	0.920
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1	76.9	45.8	77.8	44.6
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45	77.6	47.2	78.6	46.0

2、 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 小学校では、昨年度同様2教科とも全国平均を下回り、算数Aのみ府平均を上回った。国語では、ABとも本市の対前年度を上回った。また算数ABは2年連続全国平均を下回り、活用力の間われるB問題では全国との差が開いた。

3、 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語 A	成果	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読めるかの正答率 95.2% (+0.7)
	課題	考えの共通点や相違点を整理しながら話し合い、報告の説明として適切なものを選択する設問の正答率 57.5%(-11.7)
国語 B	成果	【緑のカーテン作りへの協力】における文章構成の工夫として考える設問の正答率 69.5% (-1.3)
	課題	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く設問の解答率 23.7%(-9.3)
算数 A	成果	加法と乗法の混合した整数と小数の計算を行うことができるかを問う設問の正答率 74.0% (+7.4)
	課題	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成されていることを問う設問の正答率 71.3% (-4.2)
算数 B	成果	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断する設問の正答率 67.7% (+2.7)
	課題	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する設問の正答率 15.6%(-10.5)

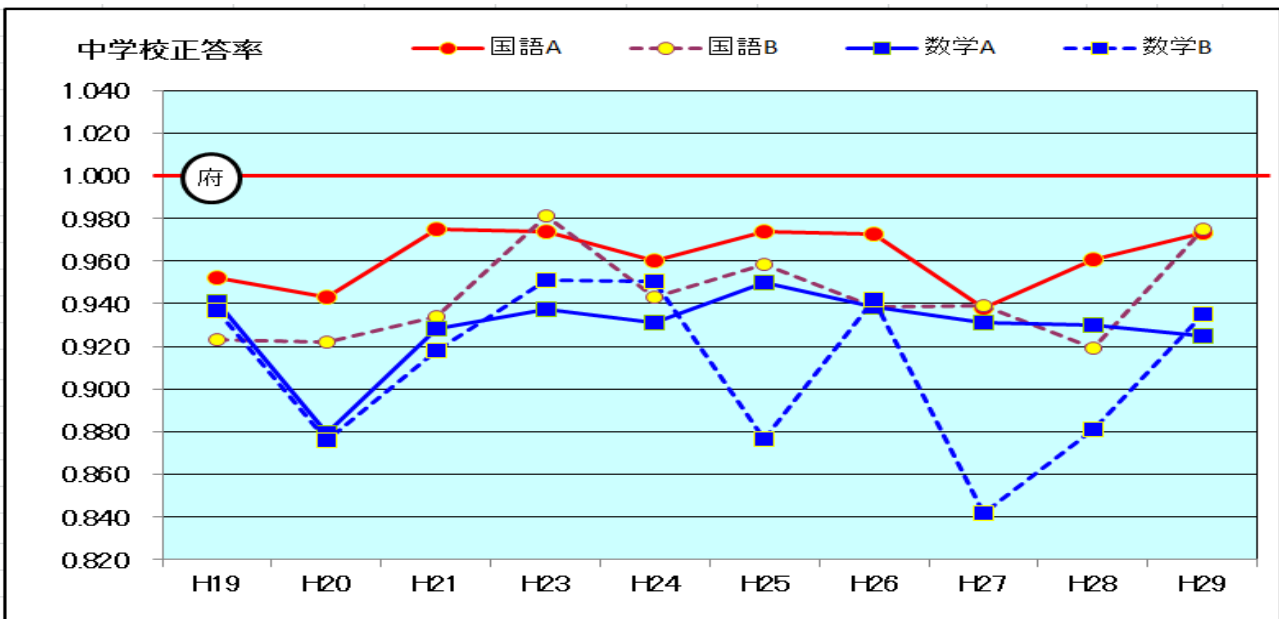
中学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第3学年 平成22年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9	70.7	58.2	73.3	67.4
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939	0.961	0.919	0.973	0.975
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925	0.935	0.875	0.947	0.934
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8	73.5	63.3	75.3	69.1
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8	75.6	66.5	77.4	72.2

数学	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査									
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9	57.4	38.0	58.9	43.3
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842	0.930	0.881	0.925	0.935
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838	0.922	0.861	0.912	0.900
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4	61.7	43.1	63.7	46.3
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6	62.2	44.1	64.6	48.1

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、2教科とも大阪府・全国の平均を下回っている。国語AB, 数学Bで本市の前年度比を大きく上回ったが、数学Aについては、大阪府・全国とのポイントの差が開いた。

3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

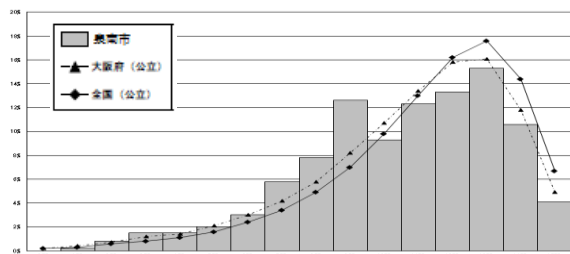
国語 A	成果	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する設問の正答率 64.7(+1.0)
	課題	相手に分かりやすいように語句を選択して話す、設問の正答率 43.4% (-10.6)
国語 B	成果	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く設問の正答率 40.9% (-0.5)
	課題	太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する設問の正答率 72.5% (-6.2)
数学 A	成果	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ設問の正答率 47.9% (+4.8)
	課題	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取る設問の正答率 58.0% (-16.3)
数学 B	成果	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができるかを問う設問の正答率 45.1% (+0.6)
	課題	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める設問の正答率 66.8% (-12.5)

小学校 国語

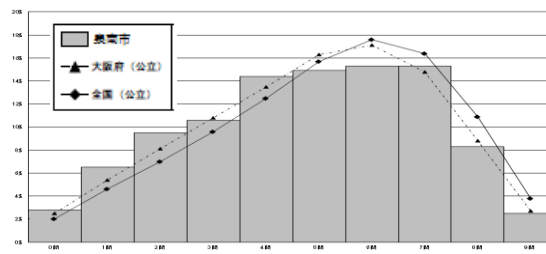
A 問題の平均正答率は 70.2%，B 問題の平均正答率は 53.0%で、大阪府や全国を下回っている。B 問題については全国と差が縮まっている。また、学力上位層が少なく、領域別では「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。

1、正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



○ AB 問題とも学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題（全15問）				設問数	B問題（全9問）			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	57.5	69.2	65.9	0.873	3	58.6	64.9	61.2	0.958
	書くこと	2	56.8	60.6	57.6	0.986	5	48.9	53.4	49.8	0.982
	読むこと	3	67.1	70.2	67.9	0.988	3	46.3	49.2	46.3	1.000
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	74.1	78.0	75.3	0.984	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	35.3	41.7	36.7	0.962
	話す・聞く能力	1	57.5	69.2	65.9	0.873	3	58.6	64.9	61.2	0.958
	書く能力	2	56.8	60.6	57.6	0.986	5	48.9	53.4	49.8	0.982
	読む能力	3	67.1	70.2	67.9	0.988	3	46.3	49.2	46.3	1.000
	言語についての知識・理解・技能	11	74.1	78.0	75.3	0.984	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	9	66.7	71.7	69.3	0.962	5	61.8	64.6	62.6	0.987
	短答式	6	75.4	79.4	76.1	0.991	1	61.5	69.2	67.2	0.915
	記述式	0	-	-	-	-	3	35.3	41.7	36.7	0.962

○ A 問題ではとくに「話すこと・聞くこと」の領域で正答率が低かった。大阪府と比べても同様に低かった。例えば、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことや目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題が見られた。

3、成果と課題

国語 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる問題では、二つの句に共通する表現の特徴、作者が捉えた情景や季節感を捉えることができている。 ▲ 漢字の読み書きに関しては、書ける漢字、読めない漢字などにムラがあるとともにも同音異義語の処理についても課題が見られる。 ▲ ことわざの使い方の例として適切なものを選択することに課題がある。
国語 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すことができるかを見る問題に課題が見られる。 ▲ 複数の条件を組み合わせ、定められた字数内で表現方法を工夫して書くことに課題がある。

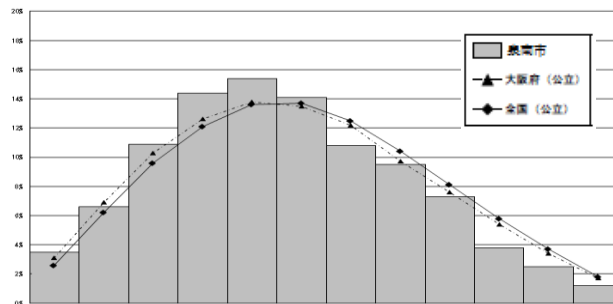
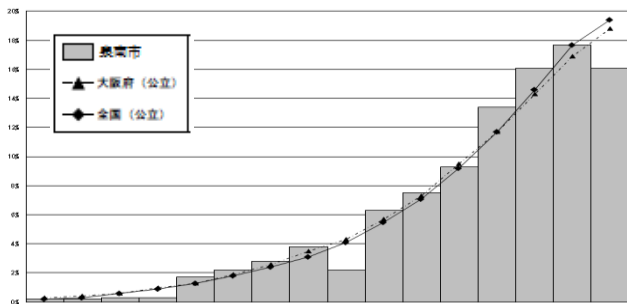
小学校 算数

A 問題の平均正答率は 78.2%，B 問題の平均正答率は 42.3%で、A 問題の正答率については、大阪府の平均を上回っている。活用の力が問われる B 問題は、府の平均を下回っており、全国との差が開いた。

1, 正答数分布

<A 問題>

<B 問題>



- AB 問題とも、大阪府や全国と同じような傾向であるが、A 問題は下位層がやや少なくその分上・中位層が多くなっている。B 問題は学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2, 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題 (全15問)				設問数	B問題(全11問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域	数と計算	8	80.9	80.6	79.9	1.013	5	49.2	52.8	51.8	0.950
	量と測定	2	67.2	68.8	68.7	0.978	2	40	47	44.7	0.895
	図形	2	79.2	81.1	80.4	0.985	1	11.3	13.2	13.3	0.850
	数量関係	5	80.9	79.6	78.3	1.033	8	38.3	40	38.5	0.943
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-	-	9	42.1	45.4	44.1	0.955
	数量や図形についての技能	8	78.2	77.7	76.7	1.020	0	-	-	-	-
	数量や図形についての知識・理解	7	78.3	79.7	79.1	0.990	2	43	48.6	46.6	0.923
問題形式	選択式	7	78.9	79.6	79.0	0.999	3	51.2	54.1	52.5	0.975
	短答式	8	77.7	77.8	76.8	1.012	3	58.3	61.7	60.8	0.959
	記述式	0	-	-	-	-	5	27.4	31.6	30.1	0.910

- A 問題では特に「数と計算」「数量関係」の領域で府の平均正答率よりも高く、前年度調査に引き続き、大阪府平均を上回る正答率を維持した。B 問題では「量と測定」「図形」の領域で課題が見られる。

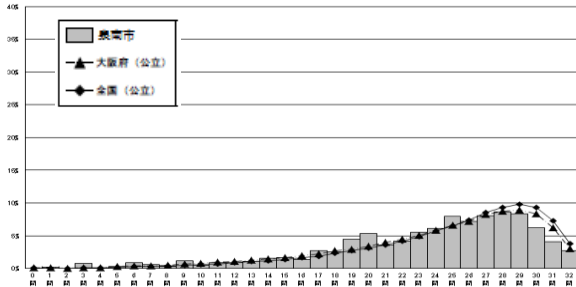
3, 成果と課題

算数 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○商を分数で表すことができるかどうかをみる問題では、整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解することができており、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。 ▲底辺の長さと高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形において、向きや形に依存せずに三角形は平行四辺形の半分の面積であることを理解することに課題が見られる。
算数 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できるかをみる設問について課題がある。 ▲料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを、言葉や式を用いて記述できるかをみる設問について課題がある。

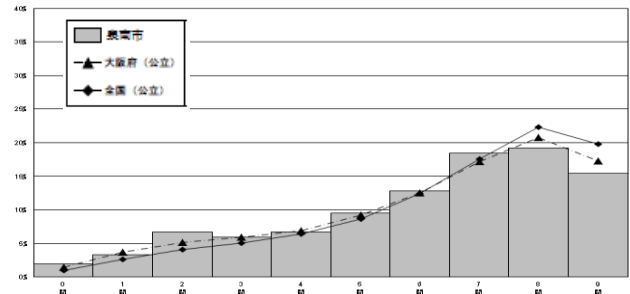
中学校 国語

平均正答率は、A問題で73.3%、B問題で67.4%となっており、大阪府や全国を下回っている。領域別では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題がある。AB問題とも本市の対前年度よりも正答率が伸びている。

1, 正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○AB 問題とも、昨年度と同様、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2, 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題 (全32問)				設問数	B問題 (全9問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	69.3	75.4	72.8	0.952	3	67.2	72.4	68.7	0.978
	書くこと	4	81.0	85.7	82.8	0.978	4	56.7	60.8	57.2	0.991
	読むこと	6	70.0	73.8	71.6	0.978	4	67.8	72.1	69.6	0.974
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	73.7	77.2	75.5	0.976	1	40.9	41.4	38.6	1.060
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	51.9	55.9	52.0	0.998
	話す・聞く能力	4	69.3	75.4	72.8	0.952	3	67.2	72.4	68.7	0.978
	書く能力	4	81.0	85.7	82.8	0.978	4	56.7	60.8	57.2	0.991
	読む能力	6	70.0	73.8	71.6	0.978	4	67.8	72.1	69.6	0.974
	言語についての知識・理解・技能	18	73.7	77.2	75.5	0.976	1	40.9	41.4	38.6	1.060
問題形式	選択式	22	75.0	78.5	76.6	0.979	5	74.6	79.6	76.7	0.973
	短答式	10	69.7	75.1	72.5	0.961	1	78.3	84.1	82.1	0.954
	記述式	0	-	-	-	-	3	51.9	55.9	52.0	0.998

○ A 問題では「話すこと・聞くこと」の領域での正答率が低かった。B 問題では、「書くこと」の領域で改善が見られた一方で、「読むこと」の正答率が低かった。

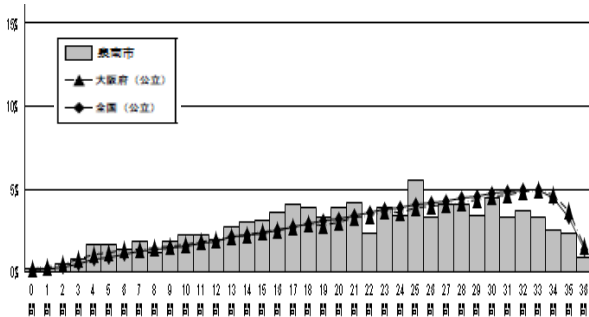
3, 成果と課題

国語 A 問題	○詩について説明したものとして、文章の表現の仕方について自分の考えをもつことができるかをみる問題については、概ねできている。 ▲文脈に即して漢字を正しく読んだり、語句の意味を理解し、適切に使ったりすることに課題がある。
国語 B 問題	▲場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することに課題がある。 ▲本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。

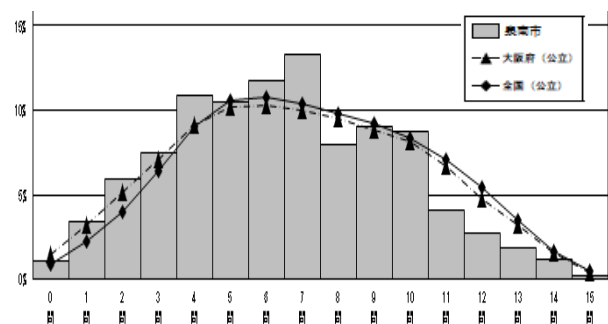
中学校 数学

平均正答率は、A 問題で 58.9%，B 問題 43.3%で、大阪府や全国を下回っている。AB 問題ともにほぼ全領域でポイントが府や全国より下回っており、課題は多い。問題形式では、記述式の問題で課題が見られ、全体的に無回答率も高い。

1, 正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○ AB 問題とも、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

分類	区分	設問数	A問題 (全36問)				設問数	B問題 (全15問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域	数と式	12	64.7	70.4	69.7	0.928	3	41.8	46.3	44.2	0.946
	図形	12	61.9	66.0	65.4	0.946	6	43.9	47.1	46.1	0.952
	関数	8	50.4	57.4	56.2	0.897	3	46.5	50.8	49.1	0.947
	資料の活用	4	49.3	57.6	55.2	0.893	3	40.5	49.1	45.8	0.884
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-	-	10	32.3	36.8	35.1	-
	数学的な技能	20	61.9	68.2	67.1	0.923	3	58.0	61.2	59.9	0.968
	数量や図形などについての知識・理解	16	55.0	60.2	59.4	0.926	2	76.4	85.1	81.5	0.937
問題形式	選択式	13	62.5	66.8	66.0	0.947	4	51.5	53.8	52.2	0.987
	短答式	23	56.8	63.4	62.3	0.912	6	60.7	66.3	64.0	0.948
	記述式	0	-	-	-	-	5	15.9	21.7	20.3	-

2, 分類・区分集計結果

○ A 問題では「関数」「資料の活用」領域で正答率が低く、B 問題でも「資料の活用」領域で特に正答率が低かった。

3, 成果と課題

数学 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることに課題がある。 ▲分数の乗法の計算や2つの負の数の和は負になること、計算のきまりにしたがって、計算することに課題が見られる。
数学 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することに課題がある。 ▲資料から必要な情報を適切に読み取り、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を掴んだり、階級の度数を求めたりすることに課題が見られる。

生活習慣や意識に関する調査(児童生徒質問紙調査)の結果

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べていますか	91.1	93.9	95.4	87.6	90.7	93.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	70.2	76.7	79.8	67.0	73.7	75.6
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	86.8	89.6	91.2	87.1	91.1	92.4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	93.6	94.3	94.8	<u>94.0</u>	93.5	94.7
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	73.1	75.8	77.4	69.3	69.7	71.0
自分には、よいところがある	69.7	74.9	77.9	57.2	65.6	70.7
将来の夢や目標を持っている	<u>85.1</u>	83.7	85.9	66.1	68.3	70.5
テレビゲームをする時間が1時間以上ある(月～金)	59.5	59.7	55.5	71.5	63.1	59.0
携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以上ある(月～金)	27.2	24.6	20.5	66.5	57.2	50.4
学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する(月～金 塾・家庭教師含む)	52.5	55.2	64.4	58.5	66.0	69.6
学校の授業時間以外に、1時間以上読書する(月～金)	14.0	14.8	16.8	<u>13.6</u>	11.9	14.0
家の人と学校での出来事について話をする	75.8	76.6	78.1	<u>71.9</u>	71.7	74.3
家で、自分で計画を立てて勉強する	50.9	55.5	64.5	47.9	48.7	51.5
学校に行くのが楽しい	83.9	85.2	86.3	77.0	78.3	80.9
地域の行事に参加している	37.9	50.8	62.6	<u>35.1</u>	30.9	42.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	<u>97.5</u>	95.5	96.1	90.6	91.1	92.8
国語の授業の内容はよく分かる	75.0	81.5	82.2	<u>80.9</u>	73.2	74.9
読書が好きである	67.9	71.4	74.3	55.6	62.1	69.9
算数(数学)の授業の内容はよく分かる	79.4	81.1	80.6	<u>71.9</u>	69.2	69.4

「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

今年度実施している学力向上のための取組み

少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。H24～26年度は信達中学校区、H27・28年度は一丘小・西信達中学校区において外国語活動を実施。H29年度は西信達中学校区で理科教員が高学年での授業を展開。児童の理科への興味・関心が高まり、中学校理科へのスムーズな接続が期待される。

スクール・エンパワメント／アクティブ・スクール推進事業の実施

大阪府教育庁のスクール・エンパワメント推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けた取組みを進める。組織的・計画的に日々の授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などの取組みを進めている。H25～27年度は、一丘中学校で実施し、H28年度は泉南中学校で実施している。H29年度からは、アクティブ・スクール推進事業として、引き続き泉南中学校で実施、新たに樽井小学校・一丘小学校でも実施している。

退職校長、指導主事による若手教員の育成

退職校長や市教委指導主事が、各学校を訪問し、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスを行っている。

学力向上スタンダードと学校活性化計画の活用

泉南市の学力向上スタンダードをベースに、各校の学力の課題に沿った形で14校の学力向上スタンダードを確立。「校内組織」「授業づくり」「学習規律」「家庭学習」「保護者・地域、校種間連携」の各分野において取組み内容・目標について全教職員をあげて方向性を確認。授業改善に取り組んでいる。

放課後等での補充学習の実施

各学校で放課後等、授業以外の時間に基礎・基本の学力をつけるための補充学習を実施。「泉南スタディ事業」として、学習支援員を活用し補充学習の充実を図っている。

学力向上に向けた重点課題

<教育委員会の取組み>

○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、更なる授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施、授業研究における支援や助言、組織的・計画的な校内研修のサポート等、大阪府教育庁と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。

○小中連携の推進

学力向上については、担当者を集め、実践報告および中学校区等での実践交流を行い、学力調査から見える課題と成果の共有を進める。また6年生児童（新中学1年生）においては、春休みの宿題を実施し、4月からの新たな学習に備え、復習・点検を行う。

○家庭学習の推進

家庭学習の推進のために、児童生徒、保護者向けの「家庭学習の手引き」を作成・配付し、小中9年間を通して自ら学ぶ習慣をつける。

○読書活動の推進

学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

<各学校の取組み>

○各校に応じた学力向上スタンダードの確立と学校活性化計画の作成

各校の課題に沿った形で〇〇小、〇〇中学校学力向上スタンダードを確立し、全職員がベクトルを揃え、課題解決のために取り組んでいる。また、それらが形骸化しないように学校活性化計画を作成し、学力向上スタンダードの確実な履行に向けて管理職及び校内の学力向上担当者が中心となって進捗管理及び調整を行っている。

○「めあて・課題」を明確にした授業改善の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し、授業の終わりには、それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。何を学ぶか、そして何ができるようになったのかを明確にし、一人ひとりの学びを確かなものにする。

○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりのつまずきを把握し、朝学習や放課後学習等、授業以外の時間を有効に活用し、基礎・基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。